

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームはるかぜ黎明
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市照国町3-18
記入者名 (管理者)	富園 和代
記入日	平成 21 年 2 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分達で作上げた理念があります。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日職員全員で唱和し、1日1日をリセットという気持ちでケアにあたっています。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方が来られた時すぐに見ていただけるように理念を貼り出して、地域の集まりの時に、ホームの実践を伝えるようにしています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの公園や神社に散歩に行ったり、買い物に行った時、気軽に挨拶を交わしたり、顔なじみになってもらい、近所の方にも利用者やスタッフが声をかけ、お茶飲みに寄ってもらい日常のおつき合いができています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会はじめ、あおご会との交流が多く、校区内の行事等参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ホーム横のごみステーションの掃除をしたり町内会の行事等準備から手伝い参加しています。いつでもホームに立ち寄っていただけるように声かけなど心がけています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価を通して、各スタッフが施設の一員としてどうあるべきかを問いかけ振り返る意義をつたえている。ご指摘に関しては、スタッフ一同検討改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、ホームでの活動や生活ぶりをお知らせし、ホームに対するご意見をいただきながらサービス向上に努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>問題、疑問が生じた時など連絡を取り合い、助言を受けながらサービスを提供している。福祉バスの利用もしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在青年後見人制度を利用されている方や、今現在検討中の方もある為に、司法書士の方とも協力しスタッフも家族の方も学ぶ機会も多く、いつでも活用できるようにしています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的、精神的な暴力による虐待が行われないようお互い声かけしながら、厳重な注意を払い防止に努めています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	共に重要事項説明書を読み合わせ、質問等の時間を十分に設け納得していただいたうえで契約、解除を行っています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」の設置を行うと同時にいつも利用者に声かけし何でも言い易い環境を整えています。介護相談委員の派遣もお願いしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた時随時近況報告をし、遠方の方には手紙や写真月1回のお便り、電話などで知らせている。金銭管理は、1ヶ月分の領収書、出納表を送っています。面会時にサインをもらっています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」の設置を行うと同時にいつも家族に「何かなかったですか？」と声をかけている。アンケートを行い参考にしています。	○ 家族の方が本心を表せていらっしゃるか、常に気をつけていくように心がけている。スタッフ間での声かけも行っていきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や管理者会議を利用して意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの基準に沿った対応と共に利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいます。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に、各ユニットのスタッフを固定化し顔なじみのケアを心がけている。移動や離職もほとんどありません。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会の案内や紹介をしてもらい随時研修に参加している。運営者も研修会を開き研修を受ける機会をもうけている。研修報告をしてもらいスタッフの質の向上に努めています。</p>	<p>○</p> <p>質の向上を目指し研修に参加したいが勤務時間や研修時間が関係しなかなかなか参加しにくい状況にある。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県・鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会、交流会に参加しています。</p>	<p>○</p> <p>鹿児島中央地区で交流会を検討中です。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年1回全員で忘年会を行ったり、有給がとりやすい環境を心がけています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月の管理者会議で現場の状況を報告している。資格手当も上がり向上心を持って働けるようになりました。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前自宅訪問、面談をさせてもらい、ご本人の意向に沿ったケアが出来るように努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、いつでも何回でもホームの見学をしていただき、管理者、スタッフ、利用者、ホームの雰囲気などを見てもらっています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用基準に沿って説明し、いきなり入居とせず何回でも来ていただき、本当にグループホーム利用が良いのか、じっくり検討してもらうように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの方が見学、お茶飲みから始めています。不安にならないように、家族や関係者の方に来ていただいたり、電話をかけてもらい、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症の人と接するのではなく、人と人のお付き合いという姿勢で共に笑い色々なことをはなし、又時には慰めてもらい、得意なことを教えてもらったり、楽しく過ごしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力をもらい、普段の生活やホームの行事など一緒に参加し楽しんでもらう、場面や機会を作っています。	○	家族の方も忙しい方が多く全員の家族が一同に会える機会がなかなか取れないので今後の課題であると思います。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも気軽に面会に来ていただけるように、声かけしている。時には外食に行ってもらったり、面会時一緒に過ごしてもらえるように、お茶を出したりしています。	○	利用者の方が会いたいといわれた時、家族の都合がつかなかったり、県外に住んでいる家族との関係が難しいことがあります。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のお友達や、趣味仲間との交流をいつまでも行えるように支援しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	居室で過ごす時間も大切にしつつ皆さんとホールで歌を歌ったり、買い物や散歩に出かけたり、お互いの居室でお茶を飲んだり、入浴したり和気あいあいの雰囲気ですごされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の方とのお付き合いは、継続している。入居者と一緒にお見舞いに行ったり、お参りに行ったり、家族の方も時々立ち寄ってくださり懐かしい話をされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご本人の気持ち、希望を優先し、家族やスタッフの考えを取り入れ検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活暦を聞くと共に、家庭訪問を行い情報収集に努めスタッフが情報を共有し把握に努めています。	○	長いこと一人暮らしや、家族がおられない利用者のこれまでの生活暦の把握が困難なケースがあり、入居されてからの様子観察で把握に努めるようにしています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の健康状態、心の状態をよく観察し、出来ることはおおいに力を発揮してもらえるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、本人はもちろん、家族、スタッフの意見を聞く場を設けています。(サービス担当者会議の開催)		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前、状態変化時、家族より申し出があった時、スタッフで問題が生じた時など現状に即したプランを作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面、生活面、リスク面、その他記録をしプラン作成の参考にしており、より良いケアが出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険の中のグループホームとして対応できるところはやっている。災害時一時避難場所としても使えるようにしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防の協力をおねがいしている。校区の方々(民生委員、自治会)の協力をいただき、ボランティアの方もとても協力的です。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、訪問理容やマッサージ、フットケアを利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会議に参加してもらったり、オムツ申請、入居者状況なども連絡を取り合っています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけの医療機関を受診してもらっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要と思われる方については、認知症にくわしい医師の受診相談治療を受けてもらっています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の正看護師を配置し、母体の医療機関と24時間ホットラインを結びいつでも相談できる体制を整えています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の方の特性をふまえ、環境変化の影響を少なくする意味でも、可能であれば早くホームへ戻ってもらえるように、病院と相談をしている。スタッフも利用者もお見舞いに行っています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から、健康管理を家族と共有しており重度化し医療管理が必要と予想される方の場合、終末期の対応及び過ごし方については家族、主治医を交え意見交換、話し合いを行っています。	○	高齢の方、持病の方、難病の方とおられるので、日々緊張しています。何かあったらすぐに連絡が取れるようにしています。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護度がたかくなったり、終末期を迎える方が出てきた時は、医療行為が必要な時、往診が可能か、入院が必要か、家族、主治医、スタッフが随時意思確認しながら、どのように最後を迎えられるかよく考えながら、取り組んでいけるようにしています。	○	医療行為との関係が問題になっているので、スタッフ全員勉強会を行っています。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	日頃から家族の方と情報交換をおこない、住み替えの必要が生じた時は、誠意を持って対処しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉の暴力にならないように、相手の立場にたつての対応をしている。記録、個人情報についても慎重に取り扱っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや、気持ちがいつでも言ってもらえるように、働きかけをしたりこちらが察したり、納得してもらえるように対応しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をベースにある程度規則正しい生活をと考えていますがその方の希望、体調に合わせて柔軟に対応しています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれな方が多く、自分の好きな物を着て行きつけの美容院や理容室を利用されている。どうしても外出できない方は、訪問理容を利用してもらっています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達で買い物に行ったり、食事作りから、盛り付け、配膳、下膳、食器洗浄できる場所を出来る方にお願ひし、みんなで楽しく食事を取っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙される方はありませんが、好みの物も把握しており、一緒に買い物に出かけたり、手作りおやつを楽しんだりしています。	

鹿児島県 グループホームはるかぜ黎明 1階

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しトイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。夜間オムツ対応の方も、日中はリハビリパンツを使用しトイレ対応にしている。日中は、オムツ使用の方はゼロです。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人員配置やその他の事情で週3回(火、木、土)の入浴日を設けている。これ以外の入浴を希望の方は、温泉に行かれたり、2階の入浴日(月、水、金)を利用してもらっています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方のペースで休んでもらっている。表情観察をして、お疲れが見えたとき声かけし、昼寝を促しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの好きなこと、得意なことを把握しそれらを取り入れたり、披露してもらったり、生きがいをもてるようにしています。(詩吟、歌、踊り、民謡、ハーモニカ、洗濯物たたみ、野菜きり、掃除機かけ)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方があまりいないが、財布を持ち、少しのお金は管理されている方もある。一緒に買い物に行ったりしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は、毎日、近くの公園や神社に散歩に出かけています。天文館や、黎明館、美術館、博物館にもよく出かけています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出が好きな方が多く、花見をはじめ、水族館、磯庭園、外食など家族の方の協力を貰いながらかけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも自由に使えるようにしており、家族からもよく電話や、手紙がきます。返事を書かれたり話をされたり一緒に楽しんでいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は、特に設けていません。近所の知り合いの方もよくお茶飲みに立ち寄られたり、家族の方も仕事帰りに立ち寄られます。お茶を出したりしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。身体拘束廃止委員会を設け毎月勉強会を開いています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口の鍵はかけていないが、入り口2番目のドアは鍵をかけています。(不審者等の侵入を防ぐため)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは昼夜を通してプライバシーを考慮しつつ、利用者の状況把握に努め怪我や事故の事も考えて見守りをしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共同生活であるので、全体的な危険を考え、包丁類は夜間手の届かないところに保管し、洗剤類も棚の上においたり、カーテンなどで目隠しをしたりしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個別のリスクを把握しヒヤリハットや気づき表を活用して、事故防止にとり組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回防災訓練を行い、緊急時の対応を勉強している。ホットラインを開設し24時間対応できるシステムが確立されています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練年2回行い、町内会はじめ、近隣の方にもお願いし協力をもらえるようにしている。非難マップなども準備し訓練をしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、その都度家族にお話しています。もし問題が生じた時は、家族、本人と相談しながら対応策を考えています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日朝夕の申し送りで利用者の体調、状況を共有しています。バイタルチェック、食事、水分補給、排泄などの観察により早めの異常発見と対応が出来るようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病と薬、副作用のことをスタッフが理解し服薬支援と状況変化の確認をし医療側と相談している。薬が変わった時は、医師、薬剤師、看護師から説明を受け副作用についても把握し状態の観察を強化しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜を多めに取り入れたり、ヨーグルトを食べたり、水分チェック表を作り便秘予防に努めています。毎日散歩や、ラジオ体操、屋内歩行なども取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守りを行い、必要な方は介助して全員の口腔ケアをおこなっています。訪問歯科を利用し口腔ケアの指導も受けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日のケア記録に記録し栄養バランスも十分に配慮しています。水分量もチェック表を作り活用しています。飲み物を水やお茶だけでなく、ジュース、コーヒー、紅茶、ポカリ、ヤクルト、カルピス、麦茶等工夫をしています。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染対策マニュアルがあり実行している。勉強会も行い、手洗い、うがい、徹底している。ペーパータオルを使用し環境整備にも努めています。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食中毒予防に関して勉強会を開いたり、手洗いを徹底し、調理器具は高温乾燥し、食材は、旬のものを使用し、毎日買い物に行き使い切るようにしています。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関前には、多くのプランターや鉢花を置いている。椅子も設置し近隣の方がよく立ち寄られる。時々花や野菜の差し入れもあります。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関や廊下にはボランティアの方が季節感のある写真などを飾ってくださり、利用者の作品を置いたり、生花の差し入れも多く季節感に囲まれた明るい雰囲気がかもし出されています。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士でテレビを見たり、歌ったり、お茶を飲んだりして過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人が好きな場所で過ごされています。気の合った利用者同士でテレビを見たり、歌ったり、お茶を飲んだりして過ごされています。</p>	

鹿児島県 グループホームはるかぜ黎明 1階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具やベッド、仏壇などを持ち込まれ使用されています。ご夫婦は、寝室を一緒にされ、いつでも安心して生活できるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やホールの喚起に努め、冷やしすぎ、暖めすぎに注意し、各部屋には必要時加湿器や空気清浄機を置いて対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	問題点はあるとおもいますが、皆さんが安全に生活できるように気配り目配りしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の間違いや、トイレの失敗等多々ありますが迷われたり、混乱された時は、その都度さりげなく声かけし少しでも自分で出来るように支援しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周辺に園芸の出来る環境があり、野菜や花を育てたり、駐車場では、季節ごとの行事(花火、迎え火、送り火)や洗濯物を干したりされています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者の「環境」のひとつである私たち「スタッフ」がそれぞれの周辺症状の誘引となることの無いように温かく、その方のペースに応じた丁寧なケアを行えるように日々努力しております。その為に、スタッフ間の良い関係をつくり、それぞれが意識し、良い空間づくりへとつなげることができ「家族」へと近づけているのではと実感しております。スタッフ間のトラブルが無くとても明るく仲の良い雰囲気自慢です。